

所属 総合文化コース	職名 准教授	氏名 岡本 義裕	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
------------	--------	----------	------------------------

I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概	要
<p>1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</p> <p>①&lt;講義形式の授業の中で&gt;教職志望の学生が、単なる知識・技能の習得ではなく、「学び＝教えの本質」への確かな理念・指針を見定め、それに基づく教育実践力の基盤を実感的に築いていくことを目指し、それを、諸講義・演習・ゼミの各機会における内容として相互に関連づけていく取り組み</p> <p>②&lt;演習形式の授業の中で&gt;教職志望の学生が、単なる知識・技能の習得ではなく、「学び＝教えの本質」への確かな理念・指針を見定め、それに基づく教育実践力の基盤を実感的に築いていくことを目指し、それを、諸講義・演習・ゼミの各機会における内容として相互に関連づけていく取り組み</p> <p>③&lt;ゼミの中で&gt;教職志望の学生が、単なる知識・技能の習得ではなく、「学び＝教えの本質」への確かな理念・指針を見定め、それに基づく教育実践力の基盤を実感的に築いていくことを目指し、それを、諸講義・演習・ゼミの各機会における内容として相互に関連づけていく取り組み</p>	<p>2012年4月～ 2017年3月</p> <p>2012年4月～ 2017年3月</p> <p>2012年4月～ 2017年3月</p>	<p>「教育方法論」「教育課程論」「道徳教育の研究（2015年度からは「道徳教育の理論と実践」に科目名変更）」などの講義を通して、学校現場における教育諸実践の本質的な課題（問題点）を、教育の歴史的経緯を踏まえたひとつのコンテキストから見極め、その抜本的解決への指針・方策を見定めていく。その中で、特に探究的な学びの本来の在り方としての「アクティブラーニング」の意義や諸要件（「体験活動や話し合い活動の機能的一連化」「そこでの論理的な話し合い活動の実現」「それらの基盤となる主体・創造・共同的な活動展開」）をアクティブラーニング化して実践理論的に感得していく。諸講義での内容をより実感的に理解し、自らが教師として実践していくイメージの基盤を築いていくために、「総合演習（2013年度からは「教職実践演習」に科目名等変更）」の授業において、履修メンバーで具体的なプロジェクトを立ち上げ共有し、外大生らしさを発揮しながら、また、社会との関わりを積極的に深めながら、共同で主体性／創造性／探究性あふれる活動を展開していく。そこでは、教師としての立場や視点で、活動をプロデュースし、展開をマネジメントしていく上での資質を高めることをねらいとするのはもちろんのこと、児童・生徒としての立場や視点に立って、「アクティブラーニングを具現化するプロジェクトとしての学び」の意味や意義をあらためて実感的に獲得していく、というねらいも併せ持つことになる。</p> <p>諸講義や演習にも通ずる主題（ねらい）を、さらに臨床化し、強固な教育実践力基盤を築いていくために、社会との関わりに加えて、教育現場との関わりも積極的に深めていく「社会・学校・ゼミの三者連携プロジェクト」を立ち上げ、取り組んでいく。その中でゼミ学生は、学校や行政機関などの調整をリードしたり、実際に教室へ出向いて児童・生徒と一緒に討議を重ねながら様々なアイデアを練り上げたりするなど、連携ネットワークの中核的存在として、プロジェクトの具体的な目標（ゴール）の完成・完遂に向け活動をコーディネートしていくことを主な役割として担う。またそこでは、関わり入る学校・学年・学級の中でのゼミ学生の立場や視点を、必要以上に指導・支援する側に置かず、むしろ、児童・生徒・学生が同じ目線に立って一緒に活動を創り上げていくという意識をプロジェクト全体（全成員）に定着させていくとで、活動やそこでの連携の意義が学生にも、児童・生徒にももたらされるよう配慮していく。</p>	

<p>④&lt;各種対策講座の中で&gt;教職志望の学生（主に、教育実習や教員採用試験を目前に控えている学生）が、それまでに積み上げてきた実践力や伸ばしてきた資質・適性などをそれぞれの場面で遺憾なく発揮できるよう、（実習・面接）担当者側の視点を想定した心得や予測質問を伝えたり、実地（模擬）体験を通して顕在化する課題を参加者相互に気づき合わせたりする取り組み。</p>	<p>2012年4月～ 2017年3月</p>	<p>教育実習生が、実習授業への漠然とした不安を解消すると共に、具体的な準備課題を明確にすることができるよう、実習対策講座（事前指導の一環）として毎年4月末～5月中旬にかけて計4回開催される模擬授業セミナーに参加している。ここでは、授業を担当する学生はもちろん、物理的制約のため参観のみとなる学生も含め、全実習生が予め指導案等を作成・提出した上でセミナーに出席することにより、授業者の視点で主体的に模擬授業の様子を観察・評価し、そこから自身の課題などを見出していくことになる。</p> <p>また、教員採用試験受験学生の大半が、その対策講座として毎年6月下旬から8月中旬にかけて計4～6回開催される模擬授業（マイクロティーチング）及び模擬面接（集団・個別）のセミナーを受講している。特に模擬面接においては、より臨場的な場面設定の中で参加学生が具体的な気づきから克服すべき留意点や準備すべき課題を得ることを重視し、実際の面接の流れを模しながら、面接官の人数、それぞれの年齢、キャリアなども実地を考慮して配するなど工夫が為される。</p>
<p>2 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>①「教育実習」用テキスト（年度毎改訂）</p> <p>②「介護等体験」用テキスト（年度毎改訂）</p> <p>③「教職概論」用テキスト（年度毎改訂）</p>	<p>2012年4月～ 2017年3月</p> <p>2012年4月～ 2014年3月</p> <p>2012年4月～ 2017年3月</p>	<p>実習の開始前から実習序盤、中盤、終盤、終了時、大学帰還という時系列に沿って実習の全体像を掴みながら、スムーズに事前準備に取りかかったり、実習中の様々な問題場面に対する解決へのヒントを得たりすることができるよう、実習に関する様々な情報、留意すべき具体的なポイントなどを、過年度実習経験者の体験談や感想なども織り交ぜながら伝える。</p> <p>予備知識や関連経験の少なさ故に、兎角現場での自らの行動・対応の在り方に戸惑うことの多い介護等体験対して、出来る限り具体的なイメージを持って臨めるよう、体験する施設や学校の種別毎の注意事項、留意すべきポイント、代表的な体験の内容（様子）など体験に関する様々な情報を、過年度体験者のエピソードや感想なども織り交ぜながら伝える。</p> <p>教職を目指す学生は、「教職概論」の授業としてまず「学校教育の各方面で豊かな実践経験を持つ現場教諭や指導主事から貴重な話を聞く5日間」を受講することで、「学校教育に対する基本的な認識」を獲得したり、「直面している様々な問題の現状」を把握したりすることとなる。その5日間を振り返り提出されたレポート群から抜粋・編集された本テキストでは、各自が、先の「獲得・把握されたこと」に基づきながら、あらためて教職課程での学びに対する自らの指針や課題意識を明確にしていくための「手がかり」を掴めるよう、味読され共有されるべき主だった感想や課題意識などを伝える。</p>
<p>3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>		

①小学校外国語活動基本研修での指導助言	2012年4月 ～2017年3月	<p>小学校外国語活動を今後、定着・充実させていく上で不可欠な視点や指針、具体的な留意点を、「プロジェクトとしての学び」をキーワードとしながら指導助言する。</p> <p>A. 総合的な学習の時間の位置づけの中でプロジェクトの発想を取り入れながら展開される外国語活動（英語活動）の在り方についての研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・該当年度期間での実績は無し</li> </ul> <p>B. 生活科及び総合的な学習を探究の学びとして展開する上で見据えるべき「プロジェクトの学び」の視点・指針や、その基本要件となる「話し合い活動」の中核化と機能的体験活動との一体化・一連化についての研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年度神戸市立宮本小学校：校内研修の一環としての特定の学年（学級）での一連の実践展開に年間を通じて参画する形で、継続的支援を行う。</li> </ul>
②総合的な学習の時間（小・中・高）／国語科（小）／生活科（小）／外国語活動（小）／道徳（小・中）／視聴覚教育（小・中・高）に関する校内研修支援	2012年4月～2017年3月	<p>C. 総合的な学習を中核とするプロジェクト型の探究的な学習活動展開において、視聴覚機器の「手段としての機能的な活用」の在り方についての研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2012年度神戸市立魚崎小学校：校内研修の一環として、研究会開催に向けた一連の授業実践の在り方、単元展開の指針などについての指導助言を数回行う。</li> </ul> <p>D. 探究的な学びにおいて「話し合い活動」を中核に位置づけるための学習活動としての要件、及びそれを論理的な言語活動として展開していくための具体的方略に関する研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2014年度神戸市立井吹西小学校：伝え合う力の伸長による「話し合い活動」の充実というテーマでの研修に協力すべく、次年度以降の展開も見据えながら学校長や研修担当との打ち合わせを重ね、校内研究授業などの機会にも参加し指導助言を行う。</li> </ul>
③総合的な学習（小・中・高）／生活科（小）／外国語活動（小）／道徳（小・中）に関する市内研修組織支援	2012年4月～2013年3月	<p>生活科、総合的な学習、外国語活動、道徳に関する教職員の市内研修組織（神戸市小学校教育研究会各部会等）への、上記理念・指針に基づく継続的支援指導助言、及び、当該組織主催の研修会での指導助言や講演。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2013年度神戸市立本庄小学校「外国語活動研究会（授業公開）」での指導助言 他</li> </ul>
4 その他教育活動上特記すべき事項  ①「東日本大地震復興支援（学校支援）プロジェクト」の展開	2012年4月～2016年3月	<p>○東日本大震災復興支援チャリティーイベント「地上のプラネタリウム」の開催（2013年1月22日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程科目「総合演習」の履修学生が、大学の協力の下、近隣の幼稚園・小・中学校と連携しながら、東日本大震災復興支援活動の一環として、キャンドルイベント（園児や小中学生らが、復興への願いや将来の夢などメッセージを書き入れ、ろうソクを灯し入れた約1000個の瓶で星座を形づくり、企画の趣旨に賛同した地域市民も多数加わる形で、それぞれの思いを胸に炎を見つめる催し）を開催し、集まった義捐金を仙台市立荒浜小学校に贈呈した。</li> </ul>

#### ○仙台っ子・神戸っ子「絆」プロジェクト（学校間交流支援）への発展

・ゼミ生が、大学や神戸市教育委員会の協力の下、前年度からの東日本大震災復興支援活動の発展的継続として、仙台市立荒浜小学校と神戸市立六甲アイランド小との学校・児童間交流深化に資する活動（双方の小学校で児童の声や学校・地域の様子などを取材し、それをメッセージビデオとしてそれぞれの学校に届け、自分たちの感想も交えながら紹介する「顔の見える交流」を積み重ねることで、子どもたち同士の物理的な距離を超えた心のつながり＝絆を強くする取り組み）を展開した（2012年度）。

・ゼミ生が、大学や神戸市教育委員会の協力の下、これまで継続して取り組んできた東日本大震災復興支援活動の発展的継続として、仙台市立荒浜小学校と神戸市立千鳥が丘小学校との学習（共に大きな震災体験を持つ仙台と神戸で暮らす小学生が、自分たちの地域の様子や「復興を願う人々の努力」などをビデオレターにして伝え合うことで、心の距離を縮めながら、町を元気づけていく自分たちの生き方について学び合う）を通しての交流を仲立ち・支援する活動を、「ビデオレター大作戦 2013」として展開した（2013年度）。

・ゼミ生が、阪神淡路大震災発生から20年という節目の意義を踏まえながら、これまでの仙台市立荒浜小学校と神戸市立千鳥が丘小学校との「震災・防災教育」を基盤に置く学習交流の更なる発展・深化を期し、それを仲立ち・支援する活動に取り組んだ。その中で、千鳥が丘小学校においては、「地域（校区）の防災マップ作り」というプロジェクトに主体的にコミットし、積極的に学校に出向いて教員と打ち合わせを重ねたり授業などの形で子どもたちとの交流・共同を深めたりした。一方、荒浜小学校に対しては、子どもたちが神戸市教委主催の「小学生防災教育発表会」（2015年1月11日）への招聘を受け神戸を訪問した際に、市教委の要請により同行取材したり、千鳥が丘小学校の子どもたちとの出会いの場をプロデュースしたりした（2014年度）。

#### ○仙台市立荒浜小学校の復興学習への取り組み成果の発信支援（閉校事実の報告を含めて）

ゼミとして、東日本大震災発生以降様々な形で支援・交流を重ねてきた仙台市立荒浜小学校が2015年度をもって閉校するに当たり、これまでの子どもたちの震災・防災に関する学びや復興への活動の歩みを、神戸をはじめ広く発信し寄せられた声などをフィードバックすることで、そういった取り組みの充実に寄与すると共に、今後への活躍に向けたエールを送る活動に取り組んだ。その中で、大学祭や「1.17の集い」で展示ブースを設け、地域・学校・子どもたちの様子や声を伝えたり、来場者からのメッセージで造形物を作成したり、さらにはそれを、子どもたち一人一人への記念アルバムにまとめ直して贈ったりした。それらの取り組みを含め、ゼミとしてのこれまで5年間の交流・支

②地域貢献イベントの開催

2013年4月～2017年  
3月

援活動の経緯は、2016年3月8日付の神戸新聞夕刊に掲載された（2015年度）。

○キャンドルイベントの開催：「教職実践演習（2013年度に「総合演習」から科目名等を変更）」履修学生が、大学の協力の下、近隣の幼稚園・小・中学校と連携しながら、キャンドルイベント（園児や小中学生らが、時には震災復興支援を願いながら、時には街の未来に思いを馳せたり自分の夢を描いたりしながらメッセージを書き込んだ千余りの瓶を、駅間のドーム広場に企画デザインに沿って並べ、ロウソクを灯す催し）を企画・準備・運営した。当日は、通勤通学の方々など地域市民も多数加わる形で、弦楽奏の響きと共に炎が揺れる幻想的な風景を眺め語りいながら、学生と参加者が時と場を共有した（2013年度～2015年度）。

○学内での国際交流（理解）イベントの開催：「教職実践演習」履修学生が、自分たちの語学に関する学修や海外での経験や生かす形で、「中学生にもっと英語に親しみを持ってもらいたい」「様々な外国の文化に触れ興味を持ってもらいたい」など教職課程履修生としての展望を持って有意義なプロジェクトを立ち上げ、大学をはじめ、市教委や連携関係の深い高校、近隣の幼稚園・小・中学校などの協力を得ながら、英語や異文化理解にまつわる参加・体験型の催しを企画・準備・運営している。当日は、地域住民の方も含め多くの参加者を集め、ねらいを達成すると共に、大いに交流を深めることにもつながっている（2013年度～2017年度）。

・わくわく英語体験イベント「OH,SUSHI PARTY!」：「外国人店員のお店でお買い物」や「外国人と一緒に巻き寿司作り」など、楽しみながらネイティブスピーカーとの対話にチャレンジしていく様々な企画を盛り込んだイベント（2014年2月16日）。

・「外大旅博 ～外大から世界をウォッチッチ～」：会場内に「アメリカ」「中国」「インド」「スペイン」のブースを設け、模擬通貨を持った参加者（旅行者）が、クイズやアクティビティーなどのアトラクションに参加しながら各国を巡り、それぞれの文化や言語などについて学ぶイベント（2015年1月31日）。

・「世界のバレンタインを見てみよう」：自分たちの語学に関する学修や海外での経験などを生かす形で、「外国の文化に触れ興味を持ってもらいたい」というねらいを持ち、「世界のバレンタインを見てみよう」と題し、各国のバレンタイン行事の展示や、各国の言語で書かれたオリジナルカードやチョコレートのプレゼント、学生がサポートしながらの外国語でのバレンタインのメッセージカードの作成などを体験してもらいイベント。当日は、近隣や市内各地から幼・小・中・高生、その保護者、家族連れ、地域の方々など多数の方に参加していただき、学生との交流を深めながら楽しんでいただくことが

		<p>できた（2016年1月30日）。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「“Welcome to Mock America” ～英語のくらしにワープしよう！～」：映画館やお土産屋、病院などのシチュエーションで実際に現地で役立つ英語表現等を学びながら模擬アメリカ旅行を体験するイベント。当日は、連携実績の多い神戸市立須磨翔風高校及び神戸市立葺合高校の協力の下、それぞれの学校から多数の生徒の参加を得る形で好評を博した（2016年1月30日）。</li> <li>・「Connect the world with your cupcake!～世界一周ゲームでトッピングを勝ち取れ！英語でふくらむケーキと夢～」：小学生・中学生・高校生が一同に集まり、世界の文化に関するゲームやクイズ、お菓子（カップケーキ）作りなどのアクティビティに英語を用いながら取り組むことを通して、英語や異文化に対する理解を深めながら、外大生やALTや留学生との交流を実現することができた（2017年1月28日）。</li> <li>・「Meet the Gaidai World!」：外大生とふれあい、海外での体験や英語の魅力について知ることによって、高校生の英語学習への内発的な動機を高めるイベント。当日は、英語を交えたダンスやクイズ、映画の翻訳やアフレコに挑戦したり、英語辞書の謎に関するプレゼンや、ワーキングホリデーや「食」の視点での異文化体験など海外留学にまつわる話を聞いたりするなどのプログラムやブースが用意され、参加した高校生が有意義な時間を過ごした（2017年1月28日）。</li> </ul> <p>○地域環境美化プロジェクトの展開と関連イベントの開催：ゼミとして、子どもたちの地域環境美化に対する意識と実行力を高めることを目的とするプロジェクトを立ち上げ、近隣小学校や地元自治会組織と連携し、また、ボランティアコーナーはじめ学内関連部署、市環境局などの協力を得ながら、子どもたちを含め多数の地域住民が参加する「スポーツ GOMI 拾い大会 in 学園都市」（2016.11.6）や子どもたちの地域清掃活動に関する広報発信や交流をねらいとする「集まれ、ダストバスターズ！」（2017.2.18）の開催など一連の活動に取り組んだ。またその中で、子どもたちの地域美化への意識が単発の行事参加時に留まらず、行事の前・間・後にも継続・発展することを願い、子どもたちにその趣旨や概要などを呼びかけ、学校の協力や保護者の賛同を得ながらメンバーを募る形で「ダストバスターズチーム」を組織し、子どもたちが近所や地域内での自主的な清掃活動の様子を投稿したり、それに応じて学生から活動成果を評価するメッセージなどを返信したりするといった交流活動を展開した。</p>
<p>③神戸市立須磨翔風高校「学内教育実習プログラム」でのシリーズ講義及び受講生徒への継続的指導助言</p>	<p>2012年4月～2017年3月</p>	<p>毎年、将来教員になることを目指す生徒を対象とした「学内教育実習プログラム」に参画し、計8回の講義・演習（「下からの道の学び」型の学習イメージづくりや、それらを個別課題（模擬授業づくり）に反映させていくためのワークショップ等）を実施すると共に、後の一連の模擬授業発表を継続的に参観し、形成的評価の視点から具体的なア</p>

		ドバイスを各回で行っている。
⑤神戸市立六甲アイランド高校「神戸学」全体発表会審査協力	2012年4月～2017年3月	「神戸学」（生徒たち自身が、神戸に因むトピックや、自分たちの身近な生活・社会に根ざした現実の問題の中から、自分たちなりにその発展・解決・実現などに寄与できる「もの・こと」を探究課題・テーマとして打ち立て、それに主体的・共同的・創造的にアプローチしていく学習活動）の実践において、全校行事である「神戸学全体発表会」の審査及び講評の一員を担う。

## II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
中学校における「特別の教科 道徳」の実践 第9章中学校道徳教育における論理的思考・表現力育成プログラムの開発	共著	2016年4月	北大路書房	渡邊満 他編	123-138
『新教科「道徳」の理論と実践（玉川大学教職専門シリーズ）』第4章第3節多面的・多角的に議論を深める問題解決的な学習	共著	2017年2月	玉川大学出版部	渡邊満 他編	143-153
論文					
議論を中核とする探究的道德学習の具現化 —論理的思考力の向上を図るワークショップとの連携の必要性・有効性を見据えて—	共著	2015年3月	日本道德教育方法学会 『道德教育方法研究』（第20号）	岡本義裕・渡邊満	21-30
「考え、議論する道徳」の定着を図る具体的一方策—話し合いの中で妥当な道徳的判断を「線引き」と共に探らせることを重視して—	単著	2017年3月	日本道德教育方法学会 『道德教育方法研究』（第22号）	岡本義裕	1-10

## III 学会等および社会における主な活動

2014年6月	日本道德教育方法学会第20回研究発表大会（岡山大会） 自由課題研究発表「論を中核とする探究的道德学習の具現化と『論理的対話力』という課題の克服 —具体的方策としての『論理力向上ワークショップ』の必要性・有効性—」 渡邊 満教授（岡山大学大学院教育学研究科）との共同発表
2014年7月	小学校英語教育学会第14回神奈川大会 自由研究発表「対話による学び合いの場としての『外国語活動』-プロジェクト性が確立されたオーセンティックな活動を基盤に-
2016年6月	日本道德教育方法学会第22回研究発表大会（茨城大会）

	自由課題研究発表「『考え、議論する道徳』の定着を図る具体的一方策 - 話し合いの中で妥当な道徳的判断を『線引き』と共に探らせることを重視して -」
--	---